

(対象事業：地域連携強化事業 地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業
・国際交流拠点形成事業)

事業名：みてふれて！

中学生のためのとっておきガラス工芸体験

事業者名：財団法人能登島ガラス美術館振興財団

住所：石川県七尾市能登島向田町125部10番地

TEL：0767-84-1175

FAX：0767-84-1129

HPアドレス：<http://www.city.nanao.lg.jp/glass/>

連携事業者名：七尾市立能登島中学校

有限会社能登島ガラス工房

会場：七尾市立能登島中学校

石川県能登島ガラス美術館

有限会社能登島ガラス工房

事業期間：平成21年10月1日～平成22年3月12日



1. 館の使命と本事業の関係

地域子どもたちにガラス芸術の教育普及活動を有効に行うため、近隣施設（七尾市立能登島中学校、有限会社能登島ガラス工房）との連携強化を図る。

2. 企画内容

①事業目的

石川県能登島ガラス美術館、七尾市立能登島中学校、有限会社能登島ガラス工房が、公立と民間の垣根を超えて協力し合い、地域子どもたちに本格的なガラス工芸体験の機会を提供し、その育成をはかることを目的に開催する。

②事業概要

能登島中学校1年生（19名）を対象に、ガラス工芸の作品鑑賞と作品制作を連動させた授業を行う。具体的には、ガラスの色をテーマにした作品鑑賞と、エナメル絵付け技法による作品制作。また、子供たちに本物（実作品や制作現場）を見せるため、美術館や工房でも授業を行う。

子供たちが、ガラス工芸への理解をより深められるよう、能登島ガラス美術館の学芸員、能登島中学校の美術教諭、能登島ガラス工房のスタッフ等で授業内容を検討し、お互いの専門分野を活かして役割分担しながら授業を実施する。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

10月に連携先の担当者と個別に打合せをおこない、11月に第1回目の全体打合せ、12月に第2回目の全体打合せと試作品作りをおこなった。授業は、1～2月の美術の授業時間（計10時間）を使っておこなった。授業プランは美術教諭、工房スタッフの意見を取り入れて学芸員が立て、各自が役割を分担して授業を担当した。出来上がったガラス作品は、授業風景を撮影した記録写真とともに美術館で展示公開（展示期間：2010年2月27日～3月12日）した。

◆授業Ⅰ ガラス素材とガラス工芸の紹介（1時間）

担当／美術教諭、学芸員、工房スタッフ

体験授業の導入として、学芸員が写真資料やDVDを使ってガラスの特徴や歴史を紹介し、工房スタッフが工房で作ったガラス製品を子供たちに手に取らせながら技法を紹介した。

◆授業Ⅱ 作品鑑賞とデザイン検討（2時間）

担当／学芸員、美術教諭 場所／ガラス美術館

授業前半は、ワークシートを活用しながら「ガラスの色」をテーマにした収蔵品展を鑑賞した。授業後半は、作品制作で挑戦する「ガラスの絵付け」技法について参考作品を紹介した。

◆授業Ⅲ デザイン検討と下書き作業（2時間）

担当／美術教諭、学芸員

美術教諭からデザインのテーマ「動植物」が提示され、図鑑などを参考にしながら下書きを描いた。

◆授業Ⅳ 絵付け作業（2時間）

担当／工房スタッフ、美術教諭

工房スタッフから絵具の取扱いについて説明を受け、細筆や竹グシを使って絵付けをおこなった。

◆授業Ⅴ 工房見学と絵付け作業（2時間）

担当／美術教諭、工房スタッフ、学芸員

場所／ガラス工房

授業前半は、絵付けしたガラス皿を焼付ける電気炉など工房施設を見学した。授業後半は、作品制作をおこなった。

◆授業Ⅵ 作品発表会（1時間）

担当／美術教諭、工房スタッフ、学芸員

完成した作品を互いに見せ合い、意見交換をおこなった。



作品鑑賞の授業



工房見学の授業

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 19人 (内 訳：中学1年生 19人)

(3) 事業により作成した印刷物等

ワークシート 30部、記録集 600部

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

- ①北国新聞（県内版）平成22年1月15日 朝刊
- ②北陸中日新聞（県内版）平成22年2月5日 朝刊
- ③北国新聞（県内版）平成22年2月19日 朝刊
- ④朝日新聞（県内版）平成22年2月19日 朝刊
- ⑤読売新聞（県内版）平成22年2月20日 朝刊

○テレビ、関連誌等

ケーブルテレビななお 5分間番組で平成22年4月に放送

②



③



④



⑤



4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

《生徒たちの反応》

授業終了後におこなったアンケート調査で、19人中13人が今回の授業をうける以前に、小学校時代のイベントや個人単位でガラス工芸体験をしたことがあると回答しており、島内に在住する子供たちはガラス工芸に触れる機会が比較的に多いと感じられた。

こうした状況で、クラスのほぼ全員の18人が今回の授業でガラス素材やガラス工芸に興味をもてたと回答してくれたことはとても嬉しいことであった。授業内容で楽しかったことには、「作品鑑賞」、「絵付け作業」、と回答した生徒が多かった。具体的な感想では、溶けたガラスの形の変化、成形技法の多様さなどガラスの成形に関心をもった生徒が多く、満足のいく作品ができたことでまたガラス作品作りに挑戦したいという生徒もいた。

《連携施設の反応》

中学校

担当の美術教諭からは、授業に専門家が関わり、現場の声を子供たちに聞かせてくれたことが良かったとの感想があった。通常の授業ではできないことが、施設間連携で実現できることにメリットがあると感じているようだ。一方、作品制作の面では、ガラス成形の醍醐味であるガラスを溶かして制作する作品作りをできれば生徒に体験させてあげたいとの意見が寄せられた。

ガラス工房

担当の工房スタッフからは、このような授業で地域の子供たちにガラスに親しんでもらえる機会が与えられるのは良かったとの感想があった。子供たちの喜ぶ姿を見ることは、作り手として励みになることでもあるようだ。しかし、授業により拘束時間が増えるため、授業時間数が多いという点をもう少し改善してほしいとの意見が寄せられた。

《今後の展望》

今回、体験授業をした結果、子供たちの反応がとても良く、この事業が教育普及活動として着実に成り立っていることを証明してくれたと思う。また、連携先と毎授業ごとに事前打合せをおこなったことで、比較的スムーズに授業も進めることができたことも良かった。

しかし、授業内容を充実させようとしたため、授業時間数が多くなり、仕事の合間をぬっての打合せも、各担当者には逆に負担となった面もあった。

次のステップとして、より多くの子供たちにガラス工芸体験をしてもらうことを計画しているが、そのためには授業をコンパクトに実施する工夫が必要である。また、市内の学校教諭や地域のガラス作家と良い関係を作り、この活動を支援してくれる人たちを増やしていく必要もあると思われる。

今後も試行錯誤することになるだろうが、美術館が主体となってこの活動を発展させていくことで、地域にガラス工芸、ガラス芸術を根づかせる基盤ができていくように思う。